

## 【パラオ共和国と常陸大宮市の関係】

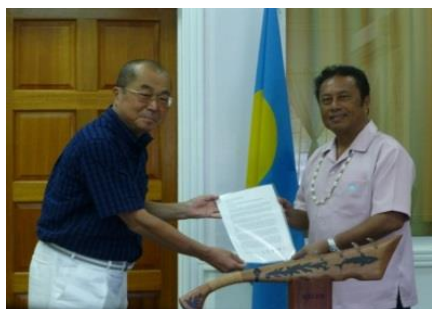
第二次世界大戦(太平洋戦争)中にパラオ共和国ペリリュー島で行われた、日本軍とアメリカ軍の陸上戦闘では、日本軍守備隊 10,500 名に対しアメリカ軍 48,000 名の壮絶な死闘が繰り広げられ、日本軍守備隊の戦死者は 10,022 名となり、守備隊の主力部隊が水戸歩兵第二連隊であったことから、茨城県出身の戦死者が 2,320 名、その中には常陸大宮市出身者 75 名が含まれておりました。

戦後は、遺族を中心としてパラオ共和国への慰霊訪問が行われております。

## 【これまでの主な経緯】

平成 26 年 10 月	パラオ共和国独立 20 周年を記念して、市の消防車両及び救急車両各 1 台を同国へ寄贈する。
平成 27 年 4 月	天皇后陛下のパラオ共和国ご訪問の際に、本市出身の戦没者の慰霊のため三次市長も同国を訪問し、トミー・E・レメンゲサウ・ジュニア大統領と面談する。
平成 27 年 6 月	パラオ共和国よりセシリール・エルデベエル官房長官、テミー・シュムルペリリュー州知事、ドナルド・ハルオ大統領特別経済顧問が本市を訪問し、市内の遺族と懇談する。また、新たに市の消防車両 1 台を寄贈する。
平成 28 年 1 月	(一財)常陸大宮市体育協会から、パラオ共和国の子どもたちへ、将来の親善スポーツ交流の実現に向け、軟式野球用具一式を寄贈する。
平成 28 年 6 月	<b>パラオ共和国の「ホストタウン」として国の第 2 次登録決定。</b>
平成 28 年 7 月	三次市長、秋山議長がパラオ共和国を訪問し、トミー・E・レメンゲサウ・ジュニア大統領ほかオリンピック委員会関係者と面談し、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会でのパラオ共和国選手団事前キャンプ地として、本市及び宮城県蔵王町への誘致を申し入れる。
平成 28 年 12 月	パラオ共和国の事前キャンプ地誘致活動を効果的に推進するため、同国のホストタウンである宮城県蔵王町と連携し、両市町において協議会を設立する。

キャンプ地誘致活動のためパラオ共和国訪問（平成 28 年 7 月 26 日～31 日）



大統領と面談、誘致招聘文を手渡す



国立体育館視察

## 【これまでの主な経緯（平成 29 年～）】

平成 29 年 1 月	(一財)常陸大宮市体育協会主催の常陸大宮クロスカントリー大会にパラオ共和国オリンピック委員会関係者を招待する。また、市内中学校を訪問し、中学生との交流を図る。
平成 29 年 1 月	丸川(東京五輪担当)国務大臣と面談し、事前キャンプ地誘致の実現に向けて国の協力を求める。
平成 29 年 4 月	<b>事前キャンプ実施に関する基本合意書を締結する。</b> <b>(蔵王町・常陸大宮市・パラオ共和国オリンピック委員会の三者締結)</b>
平成 29 年 4 月	ホストタウン交流事業の一環として、パラオ共和国から3名の研修生を受け入れる。(研修期間:1 年間) ※研修終了時に常陸大宮国際交流大使を委嘱
平成 29 年 9 月	常陸大宮クロスカントリー大会の成績優秀者をパラオ共和国のロードレース大会へ派遣する。(主催:(一財)常陸大宮市体育協会)
平成 30 年 4 月	常陸大宮クロスカントリー大会の成績優秀者をパラオ共和国のロードレース大会へ派遣する。(主催:(一財)常陸大宮市体育協会)
平成 30 年 4 月	パラオ共和国選手団の受入やホストタウン交流計画に基づく各種事業の実施にあたり、常陸大宮市東京 2020 オリパラ推進協議会を設置する。

### パラオ共和国オリンピック委員会常陸大宮市訪問(平成 29 年 1 月 14 日～16 日)



常陸大宮クロスカントリー大会視察



市内中学校訪問

### パラオ共和国研修生受入事業（平成 29 年 4 月 19 日～平成 30 年 3 月 24 日）



日本語・日本文化の学習



市内学校訪問



ホストタウンPRイベントへの参加